

赤穂市民病院これまでの医療機能の充実・経営改善への取り組み及び今後のあり方について

病院予算と一般会計予算の比率 (人・億円・%)

区分	R3病床数	人口	R3当初予算		
			一般会計(A)	病院予算(B)	比率(B/A)
赤穂市民病院	360床	46,191	222	125	56.3%
市立加西病院	199床	42,939	218	60	27.5%
高砂市民病院	199床	89,231	409	54	13.2%
三田市民病院	300床	109,908	400	111	27.8%
市立川西病院	250床	151,832	563	89	15.8%

1 今後のあり方の検討に係る基本的な考え方

赤穂市民病院は、「経営問題」だけでなく、公立病院として求められている、これまで病院が果たしてきた圏域における役割(「地域の中核病院」及び「へき地医療拠点病院」)として、県養成医の派遣を受ける病院であることも踏まえ、そのあり方について検討をする。

2 これまでの取り組み及び今後のあり方

区分	病院機能・医療	研修医人数 (前期) (後期) (計)	単年度収支	経営						
				経営改善の取り組み		市の支援				
				内容	金額	実績	基準値	差引	繰出以外の支援	
これまでの取り組み	H26	①一般病床を削減:420床→396床【▲24床】 ②地域医療支援病院の承認 ③DMATカーを配備 ④感染対策室を設置	(9名) (1名) (計10名)	▲16億円	①[加算取得]地域医療支援病院加算  地方公営企業会計基準の見直しに伴う、退職給付引当金の計上義務化(12億)	①0.5億円	8億円	8億円	0	-
	H27	①救急ワークステーション本稼働 ②7対1看護配置施設基準の取得 ③通院透析患者の送迎支援の開始	(9名) (1名) (計10名)	▲4億円	①[加算取得]地域医療支援病院加算 ②[経費削減]薬品費等を削減	①0.5億円 ②0.3億円	8億円	8億円	0	-
	H28	①院内託児所病児保育実施 ②地域包括ケア病棟(59床)開設 →【評価】目標の稼働率(85%)を下回っている(R3:65%) ③赤穂市民病院改革プラン(改訂版)の作成	(12名) (1名) (計13名)	▲8億円	①[加算取得]地域医療支援病院加算 ②[経費削減]・薬品費等を削減 ・在庫管理を徹底し、診療材料費の削減 ・未収金回収業務を弁護士法人へ委託	①0.5億円 ②0.3億円	8億円	8億円	0	-
	H29	①分娩休止	(13名) (1名) (計14名)	▲9億円	①[加算取得]地域医療支援病院加算 ②[経費削減]薬品費等を削減	①0.5億円 ②0.4億円	8億円	9億円	▲1億円	-
	H30	①第二期基本構想グランドオープン(総工費36億円、医療機器6億円) ○透析ベッド:30床→40床へ増床 ○PET-CTの新設 ○健診センターの新設 →【評価】外来患者(852人/日)及び入院患者(322人/日)の見込みを下回っている(R3:外来患者(650人/日)、入院患者(226人/日)) ②PET検診を開始 ③HCUを4床増床し、8床とする ④赤穂中央病院と赤穂市民病院の連絡会が発足	(14名) (2名) (計16名)	▲12億円	①[加算取得等]・HCUの看護体制見直しによる患者受入れの増加 ・地域医療支援病院加算 ②[経費削減]・在庫管理を徹底し、診療材料費の削減 ・会計窓口の外部委託化	①0.9億円 ②0.4億円	9億円	10億円	▲1億円	-
	R1	①一般病床を削減:396床→360床【▲36床】 ②地域医療室における土曜日の時間外診察予約、検査予約受付を開始 ③「帰国者・接触者外来」での受け入れを開始 ④感染病床(4床)での新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを開始	(13名) (4名) (計17名)	▲8億円	①[加算取得等]・HCUの看護体制見直しによる患者受入れの増加 ・看護職員夜間配置加算 ②[経費削減]・薬品費等を削減 ・電気料金の入札契約	①1.1億円 ②0.3億円	9億円	11億円	▲2億円	長期借入金 4億円 (貸付)
	R2	①新型コロナウイルス感染症対策の為、発熱等トリアージを開始 ②京都大学寄付講座(R2~4年度、耳鼻咽喉科)	(12名) (5名) (計17名)	▲10億円	①[加算取得等]・地域医療体制確保加算 ・HCUの看護体制見直しによる患者受入れの増加 ②[経費削減]・在庫管理を徹底し、診療材料費の削減 ・管理職手当の削減(▲5%)	①1.6億円 ②3億円	9億円	11億円	▲2億円	-
R3	①コロナ病床の拡充(4床→10床)	(13名) (6名) (計19名)		①[加算取得]・夜間急性期看護補助体制加算 ②[経費削減]・電気料金の入札契約 ・管理職手当の削減(▲5%)	①2.2億円 ②0.2億円	11億円	11億円	0	-	
できなかった取り組み	今できること			(千円)						
	これまでにできなかったこと 今後議論すること			項目	金額					
				①地域包括ケア病棟稼働率向上 入院患者数【現行41人→見直し後46人】	41,198					
				②給与手当削減 【勤労手当を5%削減 (市・病院管理職手当削減率5%並)】	13,852	1.4億円			2.6億円補助	
				③重複診療料の見直し(※コンセンサス未) 【市民病院の弱い診療料を見直し(廃止)】	41,909					
				④高度医療機器【PET-CT】の見直し 【廃止に伴う保守料等減】	39,866					
				⑤第2次赤穂市民病院改革プラン(改訂版) の検討・評価結果のホームページ公表	-					
				計	136,825					
				①他の公立病院等との比較に基づく人件費の適正化 ②医師住宅の早期売却 ③院長と分離した事業管理者の設置						
計					14.1億円	70億円	76億円	▲6億円	2.6億円	